

## 8月銅建値は74-82万円の間での推移を予測 アルミくず需給、大量輸出で差し当たり安定

橋本健一郎氏(橋本金属)は、8月の銅とアルミの原料価格動向と需給についての見通しレポートをまとめたので紹介する。

銅需給は、生産は震災前までの需要を前提とした稼働、生産・計画が進むものの、販売は自動車向け・住宅向けとも前年の8割もしくは前年並みと大幅に伸び悩んでいる。早期生産回復にあった伸銅品、黄銅棒の生産調整が行われるのではないかと。また4、5月ともに昨年比で12倍程度の緊急輸入がされていた電気銅は6月輸入が前月比62.4%減と大きく落としている。8月の需給バランスはやや過剰と予測。

8月の銅価格に関しては、チリ鉱山のストの長期化を受けて上昇する場面があるものの、危惧されていた米連邦債務上限引き上げが合意となったことからのドル高予測や中国の金融引締め、米欧の経済指標を受けLME価格で9,000-1万ドル。銅建値は74-82万程度と予測している。

次にアルミだが、LME価格について、中国の利上げ懸念、米欧経済の不安定といふ上値を抑える要因もある。一方で通貨への不信感が台頭し、中コモディティ(商品)への資金流入が期待できる。また中国では供

給懸念が台頭している。このため2,550-2,650ドルと一段高い水準での推移を予測する。

アルミ原料需要・価格に関して アルミ2次合金最大の需要家である自動車メーカーの6月自動車生産台数は前年比14%減まで回復しているにも関わらず7月の販売台数が前年比で28%減と予想外に伸び悩んだ。ただ貿易統計のアルミ・スクラップ輸出が大幅増加していることから原料需給は安定。LME価格で50-100ドル程度下落していることから7月後半価格から据え置きから5円上昇を予測。

### ◆自動車生産台数

	4月	5月	6月
生産台数	29万 2001	48万 9728	74万 2431
	台	台	台
前月比	- 27.5%	+ 67.7%	+ 51.6%
昨年対比	- 60.1%	- 30.9%	- 13.9%

### ◆自動車販売台数

	5月	6月	7月
販売台数	14万 2154	22万 5024	24万 1472
	台	台	台
前月比	+ 30.6%	+ 50.3%	+ 7.3%
昨年対比	- 37.8%	- 28.3%	- 27.6%

### ◆生産計画台数

	7月	8月	9月
生産計画	79万 700	69万 6400	83万 7700
台数	台	台	台
前月比	+ 8.3%	- 11.9%	+ 20.3%

## アルミ・銅 高価買受

### 柳金属産業(株)

☎072-770-3582  
日刊金属を見たと  
お申しつけ下さい

### 関東 故銅

## 関東故銅、問屋間の価格・集荷競争激しいまま 値下げ幅抑え気味で、値下げしないところも

関東故銅市況は、9月納入量の確保を念頭に問屋間では、激しい集荷競争が続いている。8月1日に発表された指標(銅建値)は1万円下げの80万円。単純に銅だけを考えると1号銅線(ピカ線)など銅系の上物スクラップでトン当たり8,000~9,000円の下げ、黄銅削粉などの黄銅系スクラップは5,000円前後の値下げが行なわれるところだが、品薄感などを反映して銅系は5,000~7,000円の下げ、黄銅系は4,000円の下げにとどまっている。

指標相場に対して市中での中心的下げ幅が、ここまで縮小しているなら値下げをせず数量を稼いだ方に利があると、値下げを行なわない問屋もみられる。そうした問屋の視線は、9月の納入分確保に向いている。

足もとのスクラップ問屋の市中買値には、問屋のポジションによるところが大きいものの、すべての品種において、7月末と変わらない値段で購入するケースがみられ、それがいまの高値となっている。大手問屋の